

平成30年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立 横川西小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成30年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

平成30年4月17日(火)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年(国語、算数、理科、質問紙)

4 本校の実施状況

第4学年	国語	89人	算数	89人	理科	89人
第5学年	国語	88人	算数	88人	理科	88人

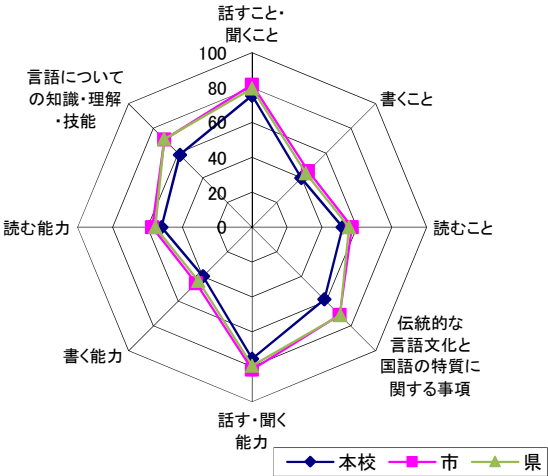
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立横川西小学校 第4学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	75.4	81.6	79.4
	書くこと	39.8	45.4	43.6
	読むこと	51.9	57.2	55.5
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	58.5	71.1	71.4
観点	話す・聞く能力	75.4	81.6	79.4
	書く能力	39.8	45.4	43.6
	読む能力	51.9	57.2	55.5
	言語についての知識・理解・技能	58.5	71.1	71.4



★指導の工夫と改善

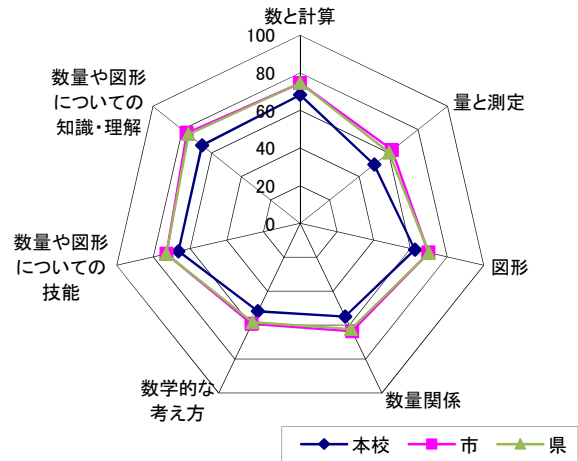
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	○話すこと・聞くことに関する平均正答率は75.4%と、他の領域と比較してよくできた。 ○設問「話し合いにおいて司会者の役割を理解し発言を整理する」では、活用に関する記述式の問題にも関わらず、県との差が－1.4ポイントと比較的できた。 ●市と比較すると－6.2%と、平均正答率が下回った。	・「話すこと・聞くこと」に関する単元では、司会者の役割や理由を挙げながら筋道を立てて話すことの大切さについて、重点を置いて指導する。 ・国語の「話すこと・聞くこと」の単元に限らず、学級活動や他教科においても指導を重ねていく。
書くこと	○設問「文章構成を意識して報告レポートを書く」では、県の正答率を1.7%上回った。 ●平均正答率が39.8%と市の平均正答率を5.6ポイント下回った。 ●設問「メモや友達の意見を基に、報告レポートの内容を書く」における無解答率が30.7%と高かった。	・選択式における問題はよくできていたので、短答式及び記述式の問題への対策として、日頃から書く活動を取り入れていく。 ・朝の学習等で、短い文章を書く練習を積み重ねていく。 ・「書くこと」の単元において、メモを基に文章を書く活動を繰り返し行う。
読むこと	○設問「文章の要点や細かい点に注意しながら読み、整理する」では、県の正答率を6.5ポイント、市の正答率を2.8ポイント上回り、よくできていた。 ○設問「段落の要点を捉えて読む」でも、県と市の平均を上回った。 ●文学作品の内容理解について、県の正答率を5.7ポイント、市を7.1ポイント下回った。文学作品の内容理解について、初めて読む文章やひねった内容の設問に慣れていないことが考えられる。	・朝の学習等で短い文章を読み取る活動を取り入れる。 ・家庭学習と朝の学習を連携させ、文章問題の読み取りと解説の時間を確保する。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○設問「漢字の読み(公園のごみを拾う。)」では、97.7%の正答率で、県平均を上回った。 ○漢字の読みに関する問題は、3問中2問が90%を超える正答率だった。 ●全体として、県の正答率を12.9ポイント、市を12.6ポイントと大きく下回った。 ●特に、ローマ字の書き方について誤答が多かった。	・漢字の読み書きについては、新出漢字として学習したときだけでなく、文章の中で使うよう声を掛けたり宿題として復習したりして、繰り返し練習する機会を作る。 ・新しい単元に入ったとき、図書室の国語辞典を活用して新出語句の学習をする機会を作り、使い方に慣れさせる。 ・ローマ字については、定期的に復習プリントを用意したり、パソコン室の利用を通して学習したりしていく。

宇都宮市立横川西小学校 第4学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	68.3	74.5	74.6
	量と測定	50.3	62.4	60.4
	図形	62.5	69.9	70.1
	数量関係	55.0	63.6	62.3
観点	数学的な考え方	51.8	59.2	58.3
	数量や図形についての技能	66.4	72.9	73.0
	数量や図形についての知識・理解	66.7	77.1	76.0



★指導の工夫と改善

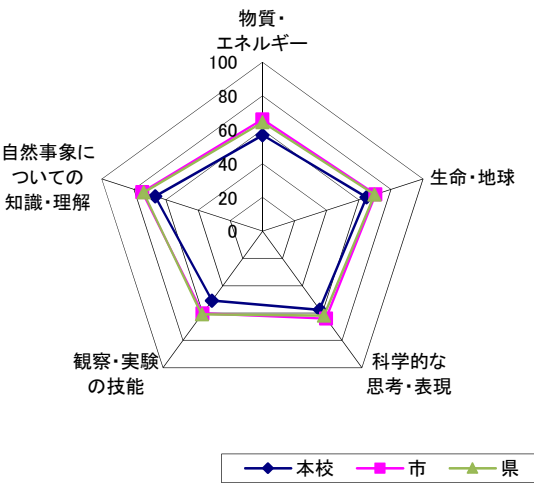
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○3位数×2位数＝4位数の問題の正答率は67.0%であり、市や県の平均を上回った。 ●余りのある除法の計算の答えを確かめる式を完成させる問題の正答率は、県の平均より17.4ポイントほど下回り、課題が見られる。 ●数量や図形の知識・理解の観点に関する問題の正答率が低い傾向が見られる。	・基礎的内容の定着を図るために継続して計算ドリルの反復練習に取り組む。 ・計算問題だけではなく、図形などを使った様々な形の問題にも対応できるよう、朝の学習や家庭学習などを活用しながら継続して指導し、理解と定着を図るようにする。
量と測定	○はかりが示す重さを読み取り、みかんの重さを求める問題では、正答率が県の平均に近い数値であった。 ●時刻と時間に関する活用問題の正答率は市の平均よりも18.7ポイントほど下回り、基礎から復習する必要がある。	・学習内容の理解を深めるため、生活と結びつけた問題や、類題に積極的に取り組ませ、繰り返し問題に取り組むことで学習内容の定着を図りたい。 ・時刻や時間の読み方など再度確認し、反復練習を行うことで、理解と定着を図っていく。その上で文章問題など活用問題を朝の学習などで取り入れ、さらなる定着を図る。
図形	○箱に入った同じ大きさのボールの半径の長さを選ぶ問題の正答率は51.1%であり、市の平均を上回った。 ●正方形に内接する円の直径の長さを選ぶ活用問題の正答率は市の平均よりも16.1ポイントほど下回り、課題が見られる。 ●図形の領域では、特に基礎問題での正答の分布がより二極化している傾向が見られる。	・円の半径や直径の求め方等を確認し、様々な練習問題を解き、多様な見方で問題を解くことができるようにしていく。 ・苦手に感じている児童や理解が定着していない児童に対して、少人数指導を活用しながら苦手克服ができるよう個別に指導していく。
数量関係	○□を用いた乗法の式に適した場面を選ぶ活用問題の正答率は71.6%であり、県の平均を上回った。 ●等分除の問題について、除法の式を立て答えを求める問題の正答率は市の平均よりも17.8ポイントほど下回り、課題が見られる。 ●棒グラフに関する問題の正答率が全て県平均を大きく下回り、低い傾向が見られる。	・言葉・図・グラフ・数直線などを用いて考えたり説明したりする学習を積極的に取り入れ、子ども同士の学び合いや少人数指導の活用により、多様な見方で解決する力を育てたい。 ・棒グラフの縦軸、横軸が何を表しているのか、どんな特徴があるグラフなのか、またグラフのどこを確認すれば問いに答えられるのかを段階的に指導していく。

宇都宮市立横川西小学校 第4学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	56.8	66.1	64.4
	生命・地球	64.8	70.4	69.8
観点	科学的な思考・表現	57.6	64.1	61.9
	観察・実験の技能	50.9	60.2	61.0
	自然事象についての知識・理解	66.8	74.8	74.0



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	○「実験結果からプロペラカーの進む距離を推測する」という問題の正解率は79. 5%で、栃木県の正答率と同じであった。 ●「ものと重さ」の問題で、ものの体積や形と重さとの関係性について課題が見られる。 ●「電気の通り道」の問題では、回路の名称や回路をどのようにつなぐと明かりが付くのかといった、知識理解に課題が見られる。 ●記述式の問題では、無回答率が高く、課題が見られる。	・今後も観察や実験を行う際、課題意識をしっかりと持たせ、観察や実験の視点を明確にして行う。 ・観察や実験の結果を図や文でまとめたり、考察を自分の言葉で表現したりする活動を積極的に取り入れ、思考力や表現力を育てていく。 ・知識・理解を深めるために、授業や家庭学習などで取り入れ、定着を図っていく。
生命・地球	○「記録から日なたの温度計を選び、その理由を選ぶ」という問題での正解率は55. 7%で栃木県の平均を7ポイント上回った。 ●記述式の問題については、無回答率は県平均よりも6. 4ポイント高く、17パーセントとなっている。 ●方位磁針や温度計の操作方法のように、用具の使い方に関しての問題の正答率が市や県と比較して低く、課題が見られる。	・虫眼鏡や方位磁針、温度計などの道具の使い方について、体験を通して、使い方の定着を図っていく。 ・観察したことをノートや記録カードに、絵や文、図などを使って自分の言葉で表現する活動を今後も繰り返し行っていく。 ・日常生活の中で昆虫や植物、太陽や地面の様子などに意図的に触れさせ、理解を深めさせるとともに、自然事象への興味関心を高めていきたい。

宇都宮市立横川西小学校 第4学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「家の人と学校の出来事について話をしている」「家の人と将来のことについて話すことがある」「家の人は、あなたがほめてもらいたいことをほめてくれる」「自分は家族の大事な一員だと思う」などの質問での肯定回答率が市や県の平均を上回っている。家庭でよくコミュニケーションが取れている児童が多いことが分かる。

○「毎日、同じくらいの時刻に寝ている」「早寝、早起きの時刻に寝ている」という質問に関する肯定回答率は、市や県の平均を上回っている。規則正しい生活ができていることが分かる。

○「勉強していて、おもしろい、楽しいと思うことがある」という質問の肯定回答割合が、県と市の平均より高い。このことから、学習のきっかけとして大切な興味関心が高いことが分かる。

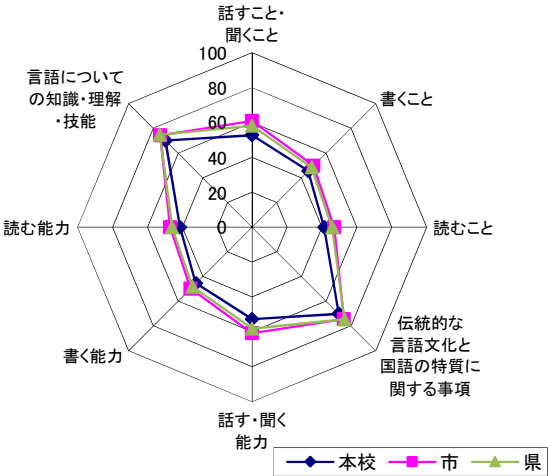
○「学校の宿題はやりたくなる内容だ」という質問に関する肯定回答率は、市や県の平均を上回っており、家庭学習に意欲的に取り組む児童が多いことが分かる。

●「家で、自分で計画を立てて勉強している」「家で、学校の授業の復習をしている」「塾の決められた宿題のほかに自分で考えた勉強をしている」という質問に対しての肯定回答割合が、市や県の平均よりも下回っている。家庭学習の習慣はあるので、今後は、自主学習の内容を紹介したり、自主学習の継続を称賛したりすることで、自ら進んで考え学習に取り組めるようにしていきたい。

宇都宮市立横川西小学校 第5学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	52.7	60.8	58.1
	書くこと	45.5	49.8	48.3
	読むこと	41.3	47.0	45.9
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	70.2	74.4	74.8
観点	話す・聞く能力	52.7	60.8	58.1
	書く能力	45.5	49.8	48.3
	読む能力	41.3	47.0	45.9
	言語についての知識・理解・技能	70.2	74.4	74.8



★指導の工夫と改善

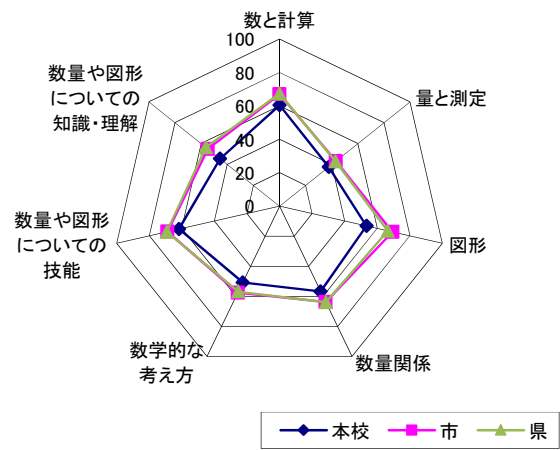
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	○「話すこと・聞くこと」の平均正答率は、「書くこと」「読むこと」の領域に比べて高い。 ●「話し合いの中で意見の共通点を考えて書く」という記述式の設問については、無回答の児童が9%で平均正答率も県や市の平均と比べて10ポイント下回っている。相手が話している内容を理解しながら聞き取ることに課題が見られる。	・「話すこと・聞くこと」については、国語の学習だけではなく、どの教科においても重点的に指導していきたい。自分の考えや伝えたいことを整理して話したり、自分の考えと比べながら聞いたりする活動を意図的に取り入れていく。
書くこと	○「資料をもとに説明する」の設問では、県や市の平均を上回っている。 ●「インタビューの結果を基に、必要な内容を整理して書く」の記述式の設問では、平均正答率が33%と低く、また記述式の設問については、無回答の児童も多くいる。文章を書くことに課題が見られる。	・無回答率も高く、書くことに苦手意識をもった児童が多いと考えられる。文章を書くときの大まかな構造を示したり、メモやアイディアマップなどのツールを使いながら、文章を書くことに慣れさせていく。 ・意欲的に学習に取り組めるよう、内容を工夫して「書くこと」を学習活動に取り入れ、目的意識をもって様々な文章を書く活動を取り入れていく。
読むこと	○「段落の要点を捉えて要約する」や「中心となる語や文を捉えて読む」、「叙述を基に、登場人物の気持ちを想像して読む」の設問についての平均正答率は、県や市の平均と同等または上回っている。 ●記述式の設問では、県や市の平均から10ポイント以上下回った。また、無回答の児童もいて個人差が大きい。	・説明文では段落の要点を捉え、細かい点に注意し、段落の関係性に気を付けながら読んでいくことを繰り返し指導していくようにする。 ・登場人物や情景についての描写から、人物の心情を想像したり状況を把握したりする文章の読み取りを丁寧にし、また、そこから読み取ったことと自分の言葉でまとめ、活動も取り入れていくようにする。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○漢字の読み書きやローマ字の平均正答率は、県や市の平均とほぼ同じ、または設問によっては上回るものもあった。漢字の読み書きについては徐々に定着してきている。 ●「漢字辞典の使い方」の平均正答率は、県と市の平均を8ポイント下回った。	・漢字の学習を繰り返していく中で、テストのための一時的な習得ではなく、他教科の場面でも既習の漢字を正しく読み書きし、定着できるよう指導していく。 ・常時漢字辞典を活用できるような学習環境を整え、授業内容を工夫し、使い方を理解し習得できるよう工夫する。

宇都宮市立横川西小学校 第5学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	60.4	66.9	67.4
	量と測定	37.7	43.2	43.0
	図形	53.4	69.4	66.5
	数量関係	56.7	63.7	63.9
観点	数学的な考え方	50.8	57.5	56.8
	数量や図形についての技能	61.7	68.8	69.3
	数量や図形についての知識・理解	45.5	54.9	56.4



★指導の工夫と改善

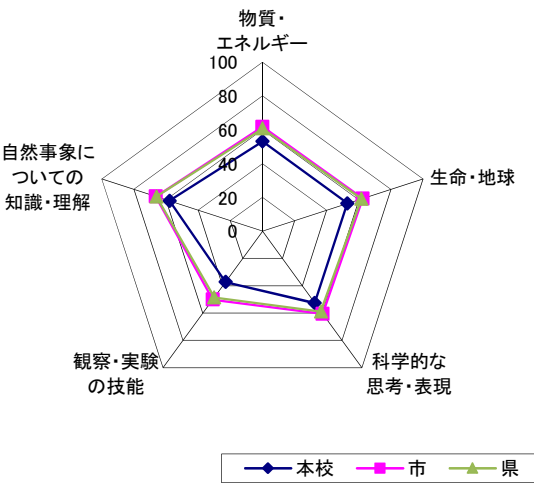
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○3位数×2位数＝4位数の平均正答率は市の平均とほぼ同じである。小数(小数第2位)－小数(小数第1位)の計算や帯分数－真分数の計算も同様である。計算に関しては自信をもって取り組んでいる児童が多く、計算練習も意欲的に実施している。 ●3位数÷2位数で商に空位があり、余りのある計算は平均をやや下回っている。	・今後も、教材の設定を工夫すると同時に、ただ計算をして終わりにするのではなく、計算プリントの見直しや再度問題を繰り返すなどを行わせる。 ・余りのあるわり算に関しては、きちんとノートのマス目を使った筆算の指導や空位のできる意味を理解できるように、教科書の問題を再度確認する作業の指導を工夫する。
量と測定	○基準量よりも比較量の方が大きい場面で何倍か求める問いは、市の平均と同じである。一方小さい場面では平均を下回っている。基準量や比較量の読み取りを今後は数直線という形で慣れるようにつなげていく必要がある。 ●買い物の場面で、1つの式に表した考え方を完成させる問題では、市の平均より下回り、課題が見られる。	・5年生になって数直線を読み取り、実際にノートに記入する場面が増えてくる。こうした機会を有効に利用したい。問題を解く際には、自然と数直線を書いて理解できるように指導していく。 ・買い物の場面は日常生活においても経験できるので、実際の買い物の場面で合計金額やおつりの計算のイメージをつかめるような意識をもたせて指導していく。
図形	○はがきのおよその面積を求める問題は、市の平均とほぼ同じで、180度より大きい角度の求め方を説明したり、平面上にあるものの位置を表す問題は、個人差がある。角度の求め方の理解と正しい計算、平面図形の位置は教材を工夫して指導した成果であると思われる。 ●与えられた2辺の続きを書いて、平行四辺形を完成させる問題は、平均を下回った。三角定規等の教具の習熟が不十分だった結果であると思われる。	・平面図形の角度も多角形になると求め方に応用がきくようになるので、今後も定期的に角度を求める場面を設定したり、応用問題などにもチャレンジさせて、さらなる定着を図る。 ・3・4年生を通じて定規やコンパス、分度器を使用してきたが、今後も図形についても計算練習のように定期的に作図等の問題に触れさせ、教具に慣れさせていくようにする。
数量関係	○二次元表の欄にあてはまる数を求める問いは、市の平均とほぼ同じである。二次元表の見方や数の求め方は、実際の表を提示するなどした授業の成果が表れている。 ●アイスクリームを買った合計金額が一番少ない月を答える問いや、登場人物の言っている内容の正誤を判断する問いの正答率は低く、正しく問題文の理解をできることに課題があると思われる。	・分かる授業の展開を工夫していく。まず、問題の把握からその解答にいたるまでの予想をさせ、その後、自分で解決してみたり、お互いの学び合いから解答への理解につなげていくような展開方法を取り入れる。 ・特に数量関係においては、朝のミニテストにおいても丁寧な個別指導ができる学習形態を今後も実施していく。

宇都宮市立横川西小学校 第5学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	53.1	61.7	60.7
	生命・地球	52.9	62.4	61.6
観点	科学的な思考・表現	52.7	60.6	58.9
	観察・実験の技能	37.2	50.1	48.6
	自然事象についての知識・理解	57.8	66.3	66.0



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	○水を熱したときの水の温まり方の様子や水の中から盛んに泡を出しながらわくことを「沸騰」ということなど、水と温度に関わる問題では市の平均を上回っており、理科の用語の定着が徐々に図られている。 ●水を熱したときに水の中からさかんに出ている泡を「水蒸気」と答える問題では、市の平均よりも19.9ポイント低く、用語の意味まで深く理解することができていないのではないだろうか。 ●実験の結果から分かることや実験の際の注意点を説明するなどの記述式の問題では、市の平均よりも10ポイント以上正答率が低い結果となっており、自分の言葉で表現することに課題が見られる。	・今後も基本的な理科の用語については定着が図れるように繰り返し指導することが必要である。その際、理科の言葉が説明する現象や性質をよく理解させることが重要である。（例えば、水蒸気は水が目に見えない気体である等） ・実験・観察する時間を充実させることが重要である。実験・観察の目的を明らかにして問題意識をもって取り組ませるようにする。 ・予想を立てたり結果を考察したりと、自分の言葉で説明をする活動を充実させる。その際、考えの根拠を示したり、理科の言葉を使った説明ができるようにし、思考力や表現力を育てていく。
生命・地球	○曇りの日の気温の変化の特徴や、月は東の空から昇り南の空を通過して西の空に沈むことを答える問題では、市の平均と同程度の正答率だった。 ●方位磁針の適切な使い方を答える問題では、市の平均よりも17.9ポイント低い結果であり、実験器具の適切な使用方法については課題が見られる。 ●季節の移り変わりによる昆虫や植物の様子の違いや、星座の動きを観察する時の注意点などに関する問題の正答率が低い。	・実験ができない内容では、モデルを使って確かめるなど、教科書で覚えさせるだけの指導にならないように注意し、児童が実感を伴って理解できるようにする。 ・実験器具の使用方法について実技を伴った確認をするようにする。 ・覚えるべき内容が身に付くよう、繰り返し復習するようにする。 ・日頃の生活や自己の経験や見聞などから、理科的事象と関連付けて、児童の興味関心を高めるようにしていく。

宇都宮市立横川西小学校 第5学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「学校での役割や係の仕事に責任をもって取り組んでいる」と回答した児童の割合は、94.3%で9割を超えており、係活動や児童会活動などが盛んで、一人一人が責任をもって活動している成果が表れている。今後も係の工夫や児童会活動の場を多く設定して児童の意識向上に努めたい。

○「難しい問題に出会うと、よりやる気が出てくる」と回答した児童の割合は、60.2%で、市の平均の59.2%より若干高い。この傾向は、児童のやる気を出させるには与える問題の工夫が重要であるともいえる。「学校の宿題はやりたくない内容だ」の回答は、6割程度であり、あまり高い数値ではない。このことから、児童が意欲的に取り組めるような宿題もより精選していく必要があるだろう。

●「毎朝、朝食を食べている」と回答した児童の割合は、92.0%で9割を超えているものの、市の平均は96.2%と比べると若干低い傾向にある。家庭での食育指導を重点的に設けて、保護者に啓発活動をするなど、家庭と連携を図りながら、児童がしっかり朝食を食べ、学校生活に臨めるように努めていきたい。

○「毎日の生活が充実している」と回答した児童の割合は、93.2%で県や市の平均を上回っている。これは家庭はもちろん、1日の大半を占める学校生活を児童が楽しんでいることの表れであろう。今後も魅力ある学校生活であり続けるためにも児童と教師の信頼関係を育み、学校全体で分かる授業を展開していきたい。また、学校行事等で工夫したり、地域との連携したりする中で児童の意見を取り上げつつ学校生活を盛り上げていきたい。

○「友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができる」と回答した児童の割合は、90.9%と9割を超えており、授業などの話し合いなどが各クラスできちんと行われており、合わせて指導もされていると思われる。今後もルールを守った話し合いを励行していきたい。

●「自分は勉強がよくできる方だと思う」と回答した児童は、44.3%で半数以下である。市や県の平均が5割を超えていることを考えると、勉強に自信がない結果の表れともいえる。そうした児童を考慮した学習指導をしていく必要がある。前日に学習した計算や宿題に出した漢字など以前に学習した内容を繰り返し行い、「できる！できるようになった！」という自信につなげていきたい。

●「家で、学校や塾の決められた宿題のほかに自分で考えた勉強をしている」と回答した児童の割合は、43.2%で、市の平均65.6%を下回る。家庭学習力を高めていくことが急務である。そのために、家庭と連携を図りながら、児童が自主学習の目標や意味を見出せるような課題の工夫をしていきたい。

●「1日当たりのテレビゲームの時間(平日)」で4時間以上と回答した児童の割合は15.9%で、県や市の平均は8～9%となっている。その時間を読書や家庭学習に少しでも結び付けられるよう、学校と家庭で早急に対策を講じる必要が感じられ

宇都宮市立横川西小学校（第4・5学年共通） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
基礎的・基本的な学力を向上させる工夫	朝の学習の時間を活用し、基礎基本の確実な定着を目指している。月曜日は国語、水曜日は算数と教科を決め、学年で内容をそろえて取り組んでいる。水曜日の算数は、担任を持っていない教員も個別指導を行い、学力向上を図っている。	4・5年生ともに、言語についての知識・理解・技能や、数量や図形についての技能など、基本的な知識や技能に関わる力は、十分身に付いているとは言えない。今後も朝の学習を継続するとともに、ステップアップシート等を活用し、習得状況を調査・分析することで、今後の学習に生かしていきたい。
家庭学習の定着を図る工夫	宿題の内容を工夫したり、3～6年生の自主学習用に「家庭学習のヒント集」を配布したりして、学年に応じた目標時間に取り組んで、提出するよう指導している。	4・5年生ともに「家で、学校の宿題をしている」に肯定的に回答した児童の割合は96%以上だが、自ら取り組む態度に関わる「家で、自分で計画を立てて勉強をしている」は65%未満である。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
教科に関する調査から、4・5年生ともに、言語についての知識・理解・技能や、数量や図形についての技能など、基本的な知識や技能に関わる力は、県平均よりも下回っている。	板書とノート作りの工夫	授業の中で学習のまとめと振り返りを丁寧に行うための整理された板書や分かりやすいノート作りを行っていくことで、授業で学んだことを整理して、確実に身に付けられるようにする。